令和６年度　エコパートナー環境学習等業務委託事業　完了報告書

事業名	「ともに学び･行動！SDGsを市民の手で」 SDGsを自分事として考える講座等運営業務
企画提案者	一般社団法人　四日市大学エネルギー環境教育研究会
目　的	持続可能な開発目標(SDGs)の達成のため、SDGs の 17 目標の内容を理解し、本市が進める「ゼロカーボンシティ」宣言を理解し行動に繋げる「自分ごと」とするための、日々の生活活動を改善することが重要である。 SDGsの中でも「環境」に特化した内容で、一般向け、親子向けの講座･ワークショップ･実験･体験を行い、SDGsについて学んでいただく。講座で得た学びを活かし、参加者が提案･発表･実行までを一連の流れとして、自らの「SDGs環境宣言」を行っていただき、これからの日々の生活の行動変容を促すことを目的とした。
内　容	各環境問題に関する講師を招き全７回（一般コース５回、保護者・子どもコース３回　※１回共通）の講座を実施した。参加者には、講義やワークショップ、そして体験などに積極的に挑戦してもらった。 最終回のグループワークでは各自が当会で準備した「SDGs カード」に記載し考え方を整理して、「SDGs 環境宣言」として発表した。その後、岩崎先生と当会で評価を行った。 【参加者･講座内容】 一般:延べ 110 名:児童延べ70名:研究会延べ 50 名 ●一般コース第1回 8/25:SDGsを自分ごとに･地域の課題に:目標11･3･4･8･9･12･15 ●一般コース第2回 9/22 豊かな海を再生するために、陸･土の大切さを学ぼう:目標11･14･15 ●一般コース第3回 10/26 農業高校と企業との連携 目標 4･12･17 ●一般コース第4回、保護者･子どもコース第1回　共同開催 11/2 水素エネルギーを知ろう目標 7･13 ●一般コース第5回 1/11　みんな「SDGs宣言」市民から　★「SDGs環境宣言」 ●保護者･子どもコース第2回 11/16　(児童)環境にやさしい鉄道をたのしく学ぶ目標 7･13 ●保護者･子どもコース第3回 12/21　(児童)港の役割とSDGsのつながりを知ろう！目標7･9･13 ★「SDGs環境宣言」 ※各講座の実施内容については別添各講座報告書を参照

まとめ	＜良かった点＞ ・「講座内容がよかった」とアンケート等からの感想が多くあり、充実したプログラムを実施できたと実感する。 ・各方面での公募を行った結果、多くの参加者を集めることができた。また、併せてSNSも活用することができた。 ・講座内容に連続性を持たせることで、SDGsの基礎知識をワークショップや体験を通じて参加者に伝えることができた。 ・最終的に参加者にSDGs宣言を行っていただき、市民のこれからの行動変容につなげることができた。 ＜反省点・改善点＞ ・参加者の大半が高齢者であり、若年層の参加が少なかった。 ・異常気象のせいか、大雨・極寒の寒さで参加数に影響が出た。 ＜今後の展望＞ 〇今後同様の講座を実施する際には、若い世代や学生の参加を促したい。学び続けることも重要であり、継続する場合にはSDGsの多彩な目標を取りあげるなど深化を図り講座の価値を高めたい。 〇気候危機については、二酸化炭素の削減の数値を視覚で訴え、原因は産業のみならず私たちの生活も原因であることや、さらに被害拡大の可能性が予測されるということを市民全体に行き渡らせる必要があると感じる。 〇地域特性を踏まえた課題に特化して産官学民の総出で、誰にもできる、今、すぐにできる取り組みを構築して、カーボンニュートラル宣言の実施をさらに強力なものとする。（過去の公害問題で市民が立ち上がった歴史を生かす発想が必要）
備　　考	【記録・啓発】 ①当研究会のホームページ内の「トピックス」で毎回、実施内容を掲載した。 ②一般・児童ともに、「SDGs環境宣言」などについて、メディア（CTY ケーブルテレビ、中日新聞）から取材を受けた。

＜各講座内容　実施報告＞

★ＳＤＧｓを自分ごとに・地域の課題に（一般コース第１回）

実施日：令和６年８月２５日（土）１３時～１５時３０分
場　所：四日市大学交流会館
参加者：３５名　講師２名　研究会４名
講　師：岩崎恭典（暁学園顧問）田辺則人（名城大学非常勤講師）

（１）講座のねらい

持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の達成のため、ＳＤＧｓの１７目標の内容を理解し、本市が進める「ゼロカーボンシティ」宣言を理解し行動に繋げるため参加者が「自分ごと」とするための講座とする。日々の生活活動や社会貢献の団体においての課題の見直しや改善に繋がることが重要であり、その事例を含めて学ぶことを狙いとした。

（２）内容

講義①「ＳＤＧｓを自分事に・そして地域の課題に」を学び、大学の役割と現在行っている実践事例を紹介された。

講義②ワークショップ：用意した「ＳＤＧｓの１７の目標」のシートに自分のことに結びつけて更にＳＤＧｓを身近に知り、学んだ。

（３）参加者の反応

講義①　ＳＤＧｓを自分事に「講義のすばらしさ」「歯切れの良さ」「もっと若い人に聞かせたい」「自分たちだけでは勿体ない」などの感動と、ご意見もいただいた。

講義②「ミニワークショップ」ＳＤＧｓの目標数値を用意したシートにて、「自分事に確認できる目標を書き込んだ」「先生方のお話にインパクトがあった」「聞きやすくのめり込んだ」などの意見・感想をいただいた。

★豊かな海を再生するために、陸・土の大切さを学ぼう（一般コース第２回）

実施日：令和６年９月２８日（土）１３時～１５時３０分
場　所：四日市大学交流サロン
参加者：３０名　講師４名　研究会３名
講　師：①千葉賢（四日市大学名誉教授）②春日部　昇（八郷地区里山保全協議会会長③小林久敏（竹資源活用協議会リーダー）④矢口芳枝（四日市大学エネルギー環境教育研究会　副会長兼事務局長）

（１）講座のねらい

里山保全について活動する２団体の活動内容や、竹粉を使って鶏のエサや公害とな

る臭いなどを消したなどといった具体的な活動を伝え、豊かな生態系を保全するためにはＳＤＧｓの基本の一部である「海の生態系」や「地域の自然を守る・活用する」といった重要性について学んでもらうことを狙いとした。

（２） 内容

講義①　「海の自然環境（生態系）」「マイクロプラスチック」についての講義。プラスチックが魚や人間に及ぼす影響について学んでいただいた。

講義②-1. 八郷地区での里山保全のための間伐実践の内容を講義とビデオで紹介し、里山保全の実情について学んでいただいた。

講義②-2. 間伐された竹を有効活用する竹資源活用協議会（パンダの会）より、竹テントつくりについて紹介があった。竹細工から竹の有効活用について学んでいただいた。

講義②-3.　生態系「土・大気（空気）・水・生物・太陽」がどうなっているかを具体的な図で表し、その一つである土は、1年に数ミリしか堆積しないなど、様々な地球環境ついて学んでいただいた。

（３） 参加者の反応

「私たちに何が出来るか、何をすべきかを考える。チャンスをいただけました」「個々の方の具体的な活動やお話を聞けたのが良かったです」「資料（研究会）の今まで知らなかった事項が多く研究や取り組みが理解できた」「環境問題は市民の義務・今日のような実体・必然性が伝わってないので機会を増やしてほしい」などの意見・感想をいただいた。

★農芸高校と企業との連携（一般コース第３回）

実施日：令和６年１０月２６日（土）１３時３０分～１５時３０分

場　所：三重県立農芸高校（現場がある農芸高校に）

参加者：３５名　講師２名、高校生５名、研究会４名

講　師：福永敦史（三重県立四日市農芸高校）学生５名　竜田聡（井村屋グループ（株）

（１） 講座のねらい

飼料の自給率は（２６％）であり、輸入に頼っているといったわが国の状況を打破するためにも、四日市農芸高校は広く活動を広げている。企業との連携と学生らの実践研究の意欲から結果を出していることを伝え、参加者に感銘を与えることを狙いとした。また、教育現場と企業のつながりが社会課題の解決にとって非常に有効であることについても学んでいただく。

（２）内容

①　井村屋の年間で発行される「環境報告書」の内容を発表、また、沢山の企業支

援を行っている大きな業績について説明があった。農芸高校には、鶏のエサとして、企業で廃棄される「カステラ」を用いることで「食品ロス」削減にも寄与しているといったお話をいただいた。

② 農芸高校の福永先生より、前の高校（明野高校）では「豚の飼育」をされていて国から素晴らしい取り組みであると表彰された経緯と、また、鶏の飼育や各関係団体などの連携について発表いただいた。学生の皆さんからもしっかりとわかりやすく参加者も聞いている方も感動的な取り組みが伝わる発表であった。

（３）参加者の反応

「餌の中味を分析し、卵との関係を導きだしていることに感心した」「高校生ならではの感性で新しい取り組みができれば良いと思う」「企業と学校でWin―WINの関係ができればと良いと思う」「真剣に本気で取り組んでいることが良く分かった」など、多くの激励の意見、感想をいただいた。

★水素エネルギーを知ろう！（一般コース第４回　保護者・子どもコース第１回　共同開催）

実施日：令和６年１１月２日（土）１３時３０分～１５時３０分

場　所：四日市大学内１階交流場所

参加者：３５名（内児童１７名）

講　師：①小林久敏・他（みえ水素ステーション四日市）②矢口芳枝（当企画者）

（１） 講座のねらい

燃料電池自動車により注目されている「水素」については理解することが難しいため、企業の取組内容や実験を通して「水素」を身近に感じてもらい、カーボンニュートラルについて学んでもらうことを狙いとした。

また、二酸化炭素などの温室効果ガスについて学び、空気のよごれや温暖化のメカニズムについて、カードゲームで楽しく理解してもらうことも狙いとした。

（２） 内容

① なぜ水素で車が走るの？なぜガソリンで車が走るの？水素ってなに？を具体的に学び、大気圧の実験で下じきや風船を使って空気の重さを確認した。その他にもペットボトルで気圧の実験も行った。燃料電池自動車は二酸化炭素などの温室効果ガスを排出しない、クリーンな自動車であることを学んだ。

② 「空気のよごれと二酸化炭素」をテーマに、自分たちが日々の生活から実践できる行動について考えたことをカードに書き込み、白板に児童らが張り付けて確認していくワークショップを実施した。

③ 当日は雨天であったことから、車の排気ガスが取れなかったが、事前に用意したザルツマン試薬にて車の排気ガスの汚れを確認した。水素車には排気口がな

いことも理解した。

（３） 参加者の反応

「資源が少ない日本だからこそ研究を進めてほしい」「実験が良かった」「きめ細かな説明が良かった」「空気をよごしてはいけないことがわかった」「私たち人間は便利な生活から地球を汚してしまっていることが分かった」などの意見・感想をいただいた。

★みんな「ＳＤＧｓ宣言」市民から（一般コース第５回）

実施日：令和６年１月１１日（土）１０時００分～１２時００分

場　所：四日市大学交流サロン

参加者：１８名　講師２名　研究会４名

講　師：岩崎恭典（暁学園顧問）　田辺則人（名城大学非常勤講師）

（１） 講座のねらい

最終回を迎えて講師に、四日市の未来について語っていただくとともに、今までの講座もヒントにして四日市市域で目指すＳＤＧｓの方向性について考えてもらった。その上で、各自がＳＤＧｓ推進に貢献するためには、どのようなことを行うべきなのかといった「ＳＤＧｓ宣言」を行っていただき、これからの日々の生活の行動変容を促していくことを狙いとした。

（２） 内容

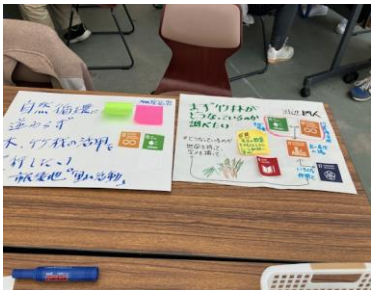
① 大学生が取り組む「持続する街づくりの活動」を紹介いただき、継続の環境教育の現状を学んだ。

② ＳＤＧｓ達成のために、私たちが日々の中から実践できる活動について考えるワークショップを行い、グループ毎に発表いただいた。

（３） 参加者の反応

「日々の中からＳＤＧｓ達成にのためにできることから取り組んでいきたい」などの感想・意見をいただいた。

【補足】講座当日はCTYケーブルテレビにお越しいただき、講座の内容を撮影いただいた。後日その様子について放映された。



★環境にやさしい鉄道をたのしく学ぶ（保護者・子どもコース第２回）

実施日：令和６年１１月１６日（土）１０時００分～１６時

場　所：軽便鉄道博物館

参加者：４０名　関係者３名　研究会３名

講　師：安藤たみよ（ASITA 代表）　軽便鉄道博物館館長

（１） **講座のねらい**

鉄道という乗り物に乗ることによって、普段は便利で当たり前の自動車が生活の一部になっていることに気づいてもらう。そして二酸化炭素を出さない移動方法について実際に体験することで、移動の脱炭素化について考えてもらうことを狙いとした。

（２） **内容**

阿下喜駅から街なかを歩くと、阿下喜には人々が楽しめるミニカーの博物館や子どもが学べる、楽しめる街づくりとなっている。学習内容として、自然の木々や葉で個々の工作づくりを行った。また、グループごとに分かれ、ミニ電車に乗り込み電車の楽しさを味わっていただいた。数人に分かれ乗込んで運転手・車掌になりきって歓声を上げて楽しんでいた。

（３） **参加者の反応**

工作では、「いろいろな葉っぱや木でつくるのって楽しい」「私はお母さんにプレゼントする」ミニ電車、三岐鉄道北勢線の乗車では、「ミニ電車で運転できるのがすごくワクワクする」「ローカルな鉄道でとても風情がある」などの感想・意見をいただいた。

また、阿下喜の街を楽しむことができたと大変好評であった。

★港の役割とＳＤＧｓのつながりを知ろう！（保護者・子どもコース第３回）

実施日：令和６年１２月２１日（土）１３時００分～１５時３０分

場　所：四日市港ポートビル　２階会議室・展望台・展示室

参加者：１３名　学童関係者３名　港関係者３名　四日市市職員１名　メディア（中日新聞・CTY テレビ）当研究会３名

講　師：四日市港ポートビル職員（３名）　田辺則人（名城大学非常勤講師）

（１） **講座のねらい**

港には、多くの企業があり、外国からの輸入される物品を陸の運搬車で指定位置に運ぶ状況が展望台からリアルに見ることができる。天然ガスを運ぶ船・燃料の石炭などを見ることによってこれらが工場で使われ、私たちの豊かな生活を支えても

らえる基礎となっていること、また、その一連の流れから二酸化炭素を出していることにも気づいてもらい、環境問題に取り組む重要性について考えていただくことを狙いとした。

（２） <u>内容</u>

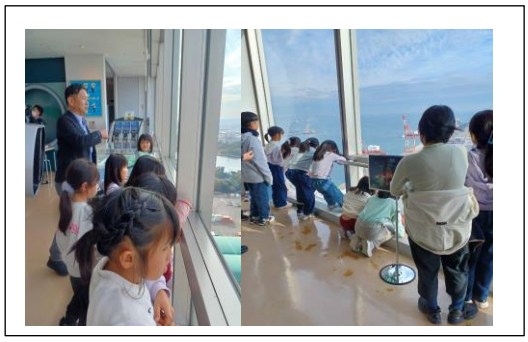
「四日市港管理組合の港湾脱炭素」について、四日市港が取り組んでいる脱炭素対策について講義いただいた。展望台展示室では①港のあゆみ　②港の役割　③港でのはたらき　④港に親しむ　など、四日市港で具体的にどういったことが行われているかについて学んだ。

最後は、当研究会講師からＳＤＧｓの具体的な説明と、私たちが日々の中から実践できる活動について考えるワークショップを行い、楽しみながら学ぶことができた。当初予定していたとおり、児童らがこれまでの学びを踏まえ、各自がＳＤＧｓ推進に貢献するためには、どのようなことを行うべきなのかといった「ＳＤＧｓ環境宣言」を発表した。

（３） <u>参加者の反応</u>

児童保護者からは「子どもたちにとって、貴重な経験ができたことを大変感謝しています」とのメッセージをいただいた。

【補足】講座当日はCTYケーブルにお越しいただき講座の内容を撮影いただき、後日放映が行われた。また、中日新聞から取材をいただき、記事にしていただいたことにより、広く市民への啓発・推進となったものと思われる。

港の役割とSDGsのつながり

四日市 小学生が環境保全学ぶ